

# 岳連 ニュース

# 宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

## 静岡県山岳連盟

〒420-8076

静岡市駿河区八幡3-1-17

TEL (FAX) 054-288-7512

編集発行/総務委員会

令和2年3月9日発行

第32号

## 冬山基礎技術の習得 冬山講習会・冬山指導者講習会

令和元年度の第59回冬山講習会・第57回冬山登山指導者講習会が2月1日(土)～2日(日)にかけ富士山御殿場口双子山周辺に於いて開催された。

講習会に先立ち1月26日例年通り担当講師による事前打ち合わせが行われ、指導の内容及その方法及び注意点の確認を行う。

今回の参加者は参加高校6校、高校生63名、一般初級7名、中級9名、顧問・指導者10名、講師・本部役員を含めて115名の参加であった。



開講式では滝田県岳連会長、佐藤県教育委員会健康体育課教育主査の挨拶があり、その後指導委員長より諸注意、講師紹介後講習を開始した。

日本雪崩ネットワークの会員でもある西島昇指導員よりビーコンの使い方など講義を受ける。今年の双子山周辺は雪も多く沢筋の斜面を利用しての講習と成った。

高校生はテント設営のデモンストレーションに基づき、各班毎にテントを設営すると、その後各グループにおいて体調確認、服装、装備のチェックを行い、双子山方面に訓練場所を求めて行動を開始した。一般初級、中級においても事前打ち合わせに基づき、雪面歩行(ツボ足・キックステップによる直登高・直下降・斜登降・斜下降)、ピッケル技術(名称・携帯法・使用法)、耐風姿勢等の訓練を実施、中級においては雪上歩行、アイゼン、

ピッケルの動作確認、アンザイレン等行い、各グループの一日目の講習を終了した。

二日目も天候に恵まれ早朝6時より行動を開始箱根連山より昇る朝日を見ながら双子山方面に向かいながら、雪面歩行(ツボ足・キックステップ)、アイゼンをつけての歩行、ピッケルなしの滑落停止、ピッケルでの滑落停止、耐風姿勢等行う。中級はスタカットでの確保、支点の重要性、二分の一・三分の一の吊り上げを行う。



閉講式の講評では高校生においてはキックステップ等非常に飲み込みが早く、スムーズに習得出来ていた、アイゼンの装着(手袋を付けて)の方法

に慣れること、アイゼンが歩いている途中で外れることがあり靴に合わせること、高体連顧問では、キックステップやカットングなどのバランスのとおり方、ロープワークの習得などの課題があり、また生徒を引率できる体力が必要である。

今回ヘルメットが転がり落ちる事があり雪山において装備等、充分気を引き締めて行動するように。今回の講習はあくまでも初歩的な技術であり、繰り返し訓練を行い確実に身につけて頂きたいとの話があり2日間の講習会は無事終了する事が出来た。(堀内 修)

## 全国理事長会議

2月16日TKP渋谷カンファレンスセンターで全国47都道府県の理事長が集まり、令和元年度の全国理事長会議が開催された。JMSCAからは理事、委員長など34名が出席した。

元年度の事業経過報告、決算見通し、2年度の事業原案、予算原案、オリンピック選手の選考、元

年度共済会事業の経過報告、2年度の事業計画予算案について各担当者から報告があった。

特に重要な問題は、昨年8月エスフォルタアリーナ八王子で開催された、JMSCAのクライミング世界選手権大会で大会終了後に収入、経費の検証を行ったところ、収入で2千万円少なく、支出で7千万円の経費増があり、合計9千万円の大幅な欠損が生じていることが判明したという。JMSCAの事業規模からすると致命的な欠損額で借り入れや、積立金の取り崩しなどで急場を凌ぎ、キャッシュフローにも危機的な状況が継続していると説明した。

そこで八木原会長の要請で、財政健全諮問委員会を設立し、世界選手権大会の予算執行状況の検証とJMSCAの精度の低い予算案、収支を見通せない予算執行状況を改善するため全般の予算計画と実行状況の検証を行い、担当者と予算執行状況の綿密な連携を図り、財政健全システムの構築に努めて行くと報告された。(木ノ内高嘉)



## 滝田会長旭日双光章受章 叙勲受章祝賀会開く

令和元年度秋の叙勲において静岡県岳連滝田博之会長が長年にわたりスポーツ振興に貢献された功績により旭日双光章を受賞した。県内の山岳関係者では初めてのことであり、私たちはこの榮譽ある受章に心からお祝い申し上げます。

長年、県岳連の陣頭指揮を執り組織の発展強化と登山技術の指導や自然環境保護活動、安全登山の啓発活動など登山の様々

な分野で幅広く指導力を発揮し尽力した功績が高く評価され、この度の受章となった。

この叙勲受章を受けて県岳連の方々から祝賀会を開催し皆でお祝いをしようとの話が持ち上がり、併せて静岡市岳連から合流の希望もあり、前川副会長、清水副会長、木ノ内理事長、望月市岳連会長、市川常任理事の5名が発起人となり祝賀会を企画することとなった。



クーポール会館(静岡市) 2020/02/15

県岳連は、役員、常任理事、監事、山岳会代表に案内することにした。

2月15日静岡市のクーポール会館で開催し、県岳連は23名、市岳連11名、清水山岳会15名、アソナプルナ遠征隊員3名の52名が出席し、盛大な祝賀会となった。



叙勲祝賀会は前例がなく、戸惑いながらの企画であったが関係者の協力と尽力により無事終了することができた。

滝田会長には、これからも、健康に留意され、県岳連のより一層の発展に向けて、ご指導をお願いします。

(木ノ内高嘉)

## 浜松日体女子4位入賞

### 健闘するも予選敗退個人部門

第10回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会が、12月21日と22日の二日間、埼玉県加須市・加須市民体育館で開催された。静岡県からは、男子、赤池俊哉(浜松日体二年)、新村悠(浜松日体二年)、池田鋼史(東海大翔洋一年)の三名、女子、横田はるな(浜松日体二年)、河島彩葉(浜松日体一年)、廣井真菜(沼津市立一年)の三名が出場した。

予選はフラッシング方式で各選手二つのルートを登り、それぞれのルートの順位点の合計で準決勝進出が決まる。今年は、昨年度までのようなポリユー



Bルートは三角のポリユームホルドが連続し、ホルドの角を使いながら登るルートであった。グレードは13aと13b。特に難しいムーブが要求されたり、難所が用意されたりしているわけではないが、全体的にホルドが悪く、体勢をよれさせられるような設定であった。三名とも、持ちの悪さに苦しまれ、体勢が崩れたところで足が抜けたり、手を伸ばすも届かなかったりしてフオールしていた。結果、赤池29位、池田32位、新村76位と、上位27名が準決勝進出となる中で、惜しくも全員が予選敗退となった。

女子、Cルートは中盤、横方向に移動するアンダー取りの付近が難所であったらしく、三名とも同様の高度でフオールした。Dルートは全体的に悪いホルドが続く、中盤以降のカチが続くあたりのムーブに戸惑うようであった。三名とも高度的にはそれほど変わらなず、中盤を抜けたあたりでのフオールとなった。グレードはそれぞれ12c、12d。横田41位、廣井47位、河島50位と、こちらも全員予選敗退という結果となった。

個人部門では残念ながら全員が予選敗退であったが、女子団体部門で浜松日体高等学校、横田、河島のペアが4位に入賞した。同校女子としては4年ぶりの上位入賞であった。

全体的にグレードが高く、終始ミスが許されないような課題設定であった。予選を見ても、同高度で大きな集団になるということもなく、上下にまんべんなく散らばるような結果であった。これは、選手自身の実力が如実に表れた結果だといえる。昨年までのような大胆で思い切りの良いムーブも必要であり、今年のような丁寧で正確な登りも必要であり、どのような課題にも対応できる競技力が必要なのであろう。ここ数年、静岡県勢は準決勝以上に残っていないが、団体では久々に上位入賞したということもあり、来年以降のさらなるレベルアップに期待したいところである。

(馬淵 剛)



# 雪山登山教室 大日ヶ岳で ラッセル訓練 アイゼン歩行訓練など

雪山の知識と技術を身につけ、楽しみ方を知って頂こうとの主旨で企画された「雪山教室」は今回で5回目を数え、今年度は白山山系、大日ヶ岳を場所で開催された。受講者は14名(男性10名、女性4名)、何れも夏山経験者十分積まれた方々。

まずは2月12日の座学で「雪山の楽しみ方」として素晴らしい雪山のライド写真を堪能し、「雪山の衣服と装備」「雪山の危険・低体温症・凍傷」「雪山の食糧」「雪山技術・歩き方」など

ど、無雪期とは異なる雪と寒さに対する対応を学んだ。

本番の実技は2月23日に実施。天気予報は前日に低気圧を伴う前線が通過して冬型の西高東低の気圧配置となり、強風が予想された。講師2名を含め総勢16名で静岡を立ち、登山口となる高鷲スノーパークを目指す。ところが天皇誕生の3連休の中日、スキー場に入る道路が大渋滞で遅々とし進まない。しびれを切らし、車を降りて歩くことにした。装備はなるべく

軽く、スノーシューは置いていく。

高鷲スノーパークスキー場に着くと今度はゴンドラに長い列が延びている。今回の教室はじつと我慢の忍耐力の訓練も兼ねているのだ。それでも何とかゴンドラに乗ると一気にグレンデトツプの1500mまで運んでくれた。しかし時間は既に13時、遅くとも15時にはこの場所に帰って来たいので、時間を見ながらの行動とする。小雪舞う中でアイゼンを着け、風で飛ばされた雪で薄くなったトレースを追い樹林帯の中へと行動を開始した。

座学時に学習した地形図よりイメージしたルー

トを思い出して登って行く。トレースを外すと膝まで潜る雪の深さに、先頭を順次交代してラッセル訓練を実施しながら尾根上に出る。ここで先ずは、汗はかいていないか。衣服調整の必要はないか。そしてアイゼンのゆるみチェック、指先に痛みは無いかと凍傷のチェック



等を行う。全員異常なし。ここから前大日ヶ岳へと続く雪斜面のトレースを追う。最後の急峻な登りではアイゼンの歯を利かせての登り、1575mの前大日ヶ岳へと着いた。前方の雪雲に覆われた中大日ヶ岳の姿を微かに見ることが出来た。既に時間は14時を回っている。行動はここまでとしてヒト休み。今度はアイゼンの引つけに注意しての下山に掛かる。斜面ではシリセードを楽しみながら無事にグレンデトツプにたどり着いた。

今回の雪山教室は予想外の交通渋滞で予定した半分の行動しかできず、何とも様にならない教室となってしまった。しかし、雪舞う寒風の中での

アイゼン着脱、ラッセル訓練、座学で学習した行動中の凍傷や低体温症のチェック、視界不良時の事前の地形把握(イメーグトレーニング)の必要性等、多少なりとも身につけて頂けたことと思います。更に技術と知識の習得に努め、今後の安全な雪山登山に生かしていただくよう希望します。

(内海廣治)

## 富士山高齢登拝者

富士山本宮浅間大社から令和元年の富士山高齢登拝者の報告があった。夏山シーズン中、数え年70歳以上の方が山頂奥宮で記帳した集計である。

それによると総数は1703人で73%が男性。最高齢者は93歳の福島県の女性、次が92歳の群馬県の女性、3番目は91歳の男性2人。県別では、1位東京都(228人)、2位神奈川県(215人)、3位埼玉県(127人)。登数は1位静岡県(2050回78歳)、2位静岡県(888回71歳)と集計されている。

(木ノ内高嘉)

## 南ア冬山相談所開設

南アルプスの冬山相談所が、12月28日から1月5日までの9日間、沼平の指導センターで開設された。県遭対協からの要請により、県岳連から指導員を派遣した。また、警察の山岳救助隊員もその間常駐し、登山者の相談、指導及び天候や雪の状態などの情報提供を行い、安全登山の一翼を担った。



の東俣林道は、台風で崩落し荒れた状態であるが通行は可能な状態にある。また、台風で流されたつり橋なども丸太の橋を架けるなど復旧している。

この期間の沼平からの入山は、28パーティで、男性が29名、女性が12名であった。内訳は、赤石岳方面が6パーティ、聖岳方面が5パーティ、茶臼岳光岳方面が17パーティであった。今年の入山者は昨年より大幅に少なく、相変わらず単独の登山者が多かった。

今年の冬山は、暖冬で積雪は少なく年末の30日に雪が降ったが好天に恵まれ、この間山岳救助隊への事故等の連絡はなかった。

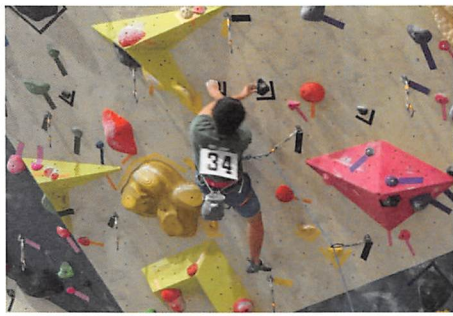
(滝田 博之)





# クライミングコンテスト11月大会開かれる ブルーキヤニオン(富士)で初実施

11月24日(日)富士のブルーキヤニオンにて、19年度第2回クライミングコンテストが行われた。東部地区で始めて行われたこの大会には、小学校5年生から高校生まで、男子23名、女子17名の県内各地の選手が参加した。オンサイトで予選・準決勝・決勝の3ラウンド制で実施した。まず、予選は男子は11c、女子は11bのルートで、それぞれ完登した12名と9名が準決勝に進んだ。準決勝は、男子は12dの保持力の要求されるルートで、このルートに完登した5名が決勝に進んだ。女子は、



名が決勝に進んだ。まず、先に行われた女子決勝は、切り返しの多いムーブの要求される12dのルートで、的確なぶれないムーブで終了点をつかんだのが、鈴木結菜さんで最終競技者の永嶋さんの結果を待つことになった。永嶋さんも迷いなく登り切り、タイムで上回ったかに見えたが途中の張りぼてのエッジの使用があったとの判定で鈴木さ

んの優勝が決まった。男子決勝は保持力、持久力とも要求される13bのルートで終了点に迫ったのが堀岡君で最後のランジでフォールした。最終競技者の鈴木音生君は着実に登り、最後のランジ止めで優勝かと思われたが、途中のクリップ位置を間違えたため、決勝最下位となり堀岡君の優勝となった。

## 初級レスキュー研修会 遭難時早期発見は登山計画書

初級山岳レスキュー研修会が1月18日静岡市の「あざれあ」で開催された。

午前は小林指導員の講義が始まり、夏山リーダーのテキストの中から話した。

1 危急時の対応とセルフレスキュー  
2 セルフレスキューの心構え  
(1) 安全の確保  
(2) 応急手当の方法  
(3) 救助連絡の方法 (4) 搬送  
3 事故発生時のフローチャート

た。運営の方でもクリップの巻き上げの必要性や張りぼての使用の有無の問題を精査する必要性を感じた大会である。会場を提供し、準備をしていただいたブルーキヤニオンの市来さん、またセッティングに関わっていただいた方々には大変感謝申し上げます。

(諸戸 明)



4 セルフレスキューに必要な装備類  
つづいて大石指導員からの山でのファーストエイド  
① 低体温症  
② 低体温症とは

② 現場での対応  
③ 応急手当  
④ 予防  
⑤ 簡易湯たんぽの作り方  
2 熱中症について  
① 熱中症の起こる条件  
② 熱中症の分類  
③ 熱中症の予防  
④ 熱中症の応急手当及び山で使える冷却用品など話されました。

午前中最後の講義は、工藤、大石、小林、高野指導員による山での搬出方法  
① ドラッグ法  
② ログロール法  
③ ツエルトの有効な活用  
ツエルトの基本的立て方、応急した立て方  
④ シートベルト結び、簡易ハーネス等、各グループに別れて、練習を行った。

午後は弘明堂治療院佐藤先生のテーピングテープ講習を行い、全員で手の総指伸筋をテーピングテープを使用、また二人で向かい合い、首、肩などを確認してテーピングテープを貼って確かめた。参加者の一人が実際に貼ってもらい、貼った後の実感を体験した。

最後に県警山岳救助隊

の鈴木隊長の講話があり、30年度の全国及び静岡県の遭難事故件数等の報告、及び事故事例など、話され静岡県では全国8番目の事故件数があり富士山、南アルプスの順に多い。

遭難時の連絡は110番117番どちらでも良いが、必ず(山の遭難事故です)と報告する。山に行くときは少ないとも家に、行先、経路等を置いて行くこと。登山計画書は必ず提出すること。遭難時の連絡は、当事者と本人が直接警察署等に連絡するように、山を知らない家族等からの又聞きは時間と経費のロスですと話された。

参加者は4団体、岳連個人会員2名、個人5名、岳連未加入団体1、参加者数29名、指導員4名、岳連役員2名

(堀内 修)





# ジュニアボルダリング競技会

片桐5連覇、長嶋3連覇

第13回静岡県高等学校・

ジュニアボルダリング競技大会が、2月11日(火)に静岡市のプラネットクライミングジムに47人

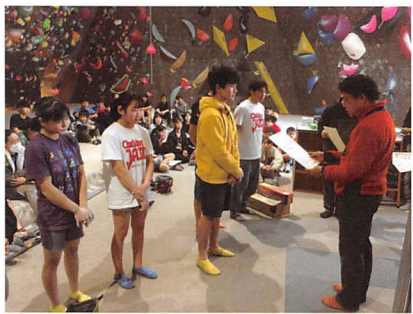
(男子31人、女子16人)

の参加を得て競技が行われた。予選は5級から初段までの12課題(男女共通80分)のセッション方式で行われ、完登数とゾー

ン獲得数で競われた。男子は11課題完登の5人に加えて10完登までの9人

が決勝に進んだ。女子は、10完登を筆頭に、7完登

までの9名が決勝に進んだ。決勝は、4分間隔のベルトコンベアー方式で



Bジャパンカップにも出場した吉永(藤枝北高)、

ボルダリングでも成長著

しい鈴木音生(東海大翔

洋中)の3人の争いとなつ

た。第一課題でコーディ

ネーション系の課題を唯

一完登した吉永がリード

するが、片桐は第2課題

で体幹と足を使う課題で

ただ一人完登し盛り返し

残りの2課題も登り切り

最終課題で完登を逃した

吉永を抑え大会5連覇を

飾った。女子は、永嶋

(東益津中)と鈴木結菜

(清水第四中)の2名の

争いとなり、3完登で並

ぶが、第一課題で唯一ゾー

ンを獲得し、終了点に迫つ

た永嶋が上回り大会3連

覇を飾った。本年の大会

は男女とも、上位の選手

レベルが高く白熱した戦

いが繰りひろげられた。

本年もセツトに多大な労

力を払っていたいただいた倉

島さんおよび、ジムスタッ

フの皆様方に感謝申し上

げます。

結果は次の通り。

男子1位 片桐綾真(浜

2位 吉永利行(藤枝北高)

3位 鈴木音生(東海大翔洋中)

女子1位 永嶋美智華

海大翔洋中)

永嶋美智華

## 指導者研修会開催される

山の気象と登山情報の入手法など

本年度の指導者研修会

は、1月26日の午前、最

近登山に役立つネット情

報とその問題点のフリー

トークで、開催された。

最初のテーマは、「近年

年の山の気象的特徴と入

山者として注意すべき点

として、基調レポートを

難波先生にお願いした。

当日仕事の都合で代理者

からの報告があった。気

象現象の基本が解説され

上昇気流の発生が大きく

かわかることが述べられ

た。ネット情報として、

活用できる主なアプリも

指摘した。それを受け、

気象庁予報官をしている

西島氏から、気象予報士

が予報を出す仕組みと最

終的な判断材料などの話

を聞き、質疑が行われた。

その中で、西島氏から最

終判断は、雲の種類と動

2位 鈴木結菜(清水第四中)

3位 加藤雪峰(静岡観山中)

(諸戸 明)

岡観山中)

(諸戸 明)

である点の話しもあり、

印象に残った。

次のテーマは、「入山

前・登山中の情報入手法

で、内容的には、気象・

地図アプリの利用、現地

情報では、ライブカメラ

山小屋のホームページで

の登山道の現状、積雪情

報が入手できることが報

告された。質疑の中では、

山岳会運営にスマホの会

のラインつくりを活用し

山行への呼びかけ、山行

の登頂した写真をリアル

タイムで送信でき、無事

下山の報告もしている会

からの意見が出された。

ただ、ネットでの山行の

呼びかけでは、新人など

の、技術・体力を把握で

きていない会員同士で、

山行が行われる可能性、

休みの都合で、会員同士

が個人的に日程を決めて



日程が遅れると、会員全

体で行かなくなる可能性

もあり、ネット山岳会と

同じ課題があることも話

題提供がなされた。これ

らの質疑を終え研修会を

終了した。

レジメにまとめられた

参考資料(使用アプリ例)

では天気に関しては、難

波氏から「てんきととく

らす」(県別山名別に、

各評価を1週間分表示)

「tenki.jp 登山天気」

(有料)・「ぐらぐらウェ

ザーニユース」(有料)・

「ヤマケイオンライン

山頂ポイント天気」

(主要50山。無料)・

「コンパスでてるてるぼう

ず地点気象予報」(無料

と有料のプレミアムがあ

り情報内容量に差がある)・

「山の天気予報ヤマテン」

(有料。全国18地域。山の山頂の天気予報) 西島氏から

<https://jasnow-forecast.com/>

(積雪情報。山の標高での積雪予報を表示) 地図

では、「ジオグラフィカ」

(スマホの画面に地形図

と現在位置移動の軌跡表

示)。最新情報を得るに

は、「ヤママップ」(山の

地図、記録あり)。「ヤ

マレコ」(山のコースタ

イム、軌跡のある地図、

標高断面図、写真あり)。

その他の活用できるネッ

ト情報源としては、目標

山の近隣山小屋のホーム

ページ(例:下の廊下開

通情報は阿曽原小屋。赤

岳岳嶺近くのアイスの

氷の状態。「鉱泉日誌」)

問題点・注意点としては、

山の中でスマホ利用の

アプリは、受信できない

エリアも。バッテリー消

耗が早い。寒冷だとバッ

テリーがすぐなくなる。

地図などは、事前の取り

組んでおくこと。ネット

上の「記録」は、個人差

があり誇張傾向があるの

では?とあった。

(工藤誠志)



11月常任理事会

日時 11月18日(月) 18時30分

場所 静岡労働会館

出席者 滝田博之、清水雄三、前川朝夫、木ノ内高嘉、出利葉義次、望月喜久治、増田浩二、市川隆夫、鈴木修、兼子猛、内海廣治、加藤敏美、諸戸明、坂田昇(文責)

会長挨拶

①台風19号で各地の登山関連道路の崩壊など発生している、入山前に情報を収集して下さい。

②11/5〜10「南アルプス写真展」を開催中です。県岳連は応募がなく、富士宮山岳会・島田しらびそ山の会に依頼して、展示作品を収集した。来年以降も皆さんに相談して進めます。

委員会の報告

(1)国体委員会(諸戸)

①10/3〜6 茨城国体では、成年男子で2名出場、成績は・ボルダリング21位、リード26位。東海ブロックの他の団体は、全て入賞している、壁は

高いと感じている。

(2)「全日本登山大会」(9月28〜30)の報告

①岐阜県で実施され、前川副会長(乗鞍岳に登山)、木ノ内理事長(西穂独標に登山)の2名参加。

②記念講演で穂高岳山荘代表の今田恵氏(女性)、時代に合った山小屋の経営など興味ある講演だった。

(3)指導委員会(加藤)

①令和元年度「秋山登山教室」10月5〜6日、17名参加で、合戦尾根ピストン(燕岳、表銀座散策)で楽しんだ。

各委員会の事業計画

(1)「雪山登山教室」の募集(内海)

①「学習講座」2月12日場所は労働会館で実施「雪山の楽しみ方」「雪山の安全対策」募集30名

②「実技講座」2月23日岐阜県の大日岳で雪上歩行をとらしてスノーハイ

ク楽しむ、募集25名

(2)第59回冬山講習会・第57回登山指導者講習会の募集(内海)

①日時場所 令和2年2/1〜2/2日、富士山御殿場口双子山付近、募集人員150

名(内指導者講習20名)

・受講種別 初級AⅡ初心者で、アイゼン、ピッケルの無い者、初級BⅡ初心者または初めて講習会に参加する者で、冬山装備を携行できる者、中級Ⅱすでに初級を受講した者、冬山経験者、高

体連Ⅱ生徒及び教師で、学校ごとまとめて申込み、指導者講習Ⅱ岳連加盟団体で指導的立場にある者及び公認指導員を受験を目指す者

・高校生に対してはスノーシューの歩き方など講習

(3)「初級山岳セルフレスキュー研修会」の募集(滝田)

①日時場所1月18日、あざれあ、募集人員50名

(4)第20回「竜爪山岳競技会」について 清水

①台風で登山道が崩壊している為、今年度は開催を中止する。

(5)第12回ボルダリング競技会について…諸戸

①例年どおり実施、クライミングはブルーキャニオンで実施する予定。

(6)東海ブロック研修会(滝田)

①例年どおり実施、愛知

県が担当、実施要項無し準備中。

その他一般連絡

(1)令和2年の岳連カレンダーについてⅡ残部数35部あり、各加盟団体に購入をおねがいしている

(2)静岡県山岳連盟の法人化

①定款等の規定は2/常任理事会後に理事と協議概ね了解を得た。

②設立時の社員、費用(9万2千円)、規定など、役員数・会費など従来通りとする。

11月18日審議で了解され公証人役場に提出

③法人の理事は今回の常任理事会で協議

④法人の予算は来年1月末までに、各委員長に事業別の収支作成願ひ、それをもとに予算化・運営する。

(3)会報31号の概要説明(木ノ内)

(坂田 昇)

1月常任理事会

日時 令和2年1月20日 18時30分より

場所 静岡労働会館5F

会議室 出席者 滝田博之 前川朝

夫 木ノ内高嘉 出利葉義次 堀内修 工藤誠志 市川隆夫 鈴木修 坂田昇

兼子猛 内海廣治 加藤敏美、諸戸明 清水雄三(14人)

会長挨拶

①木ノ内理事長がSBSスポーツ功労賞受賞、富士高校女子が奨励賞を受賞

②滝田会長が叙勲

③全国スポーツ少年団が8月初めに富士宮口より宝永山に登る。10名ほど手助けをお願いしたい。

③山岳連盟法人化の段取りはメールで連絡した通り。2月10日までに、令和2年度の役員を選出してもらいたい。3月上旬に臨時総会を開き、4月1日からの設立を目指したい。

各委員会からの報告

①指導委員会(内海)

・1月26日に指導者研修会(30人参加予定)及び冬山講習会講師打合わせを行う。

・冬山講習会は2月1〜2日に行う。受講者86人、講師16人が参加予定

・雪山を楽しむ登山教室座学2/12 実習2/22〜23

大日ヶ岳 保険を検討中

②国体委員会(諸戸)

・1月13日にクライミングコンテストを浜松スクエアで実施した。

・2月11日にボルダリング競技会を静岡プラネットで開催予定。

・4月29日に国体県予選を計画している。東海の他の3県は合同で県予選を実施するが、静岡は単独で行う。スクエアでリードとボルダリングの両方を行う。東海ブロックは愛知県担当。

③遭難対策委員会(堀内)

・1月18日に初級山岳レスキュー講習会を実施した。29人参加

④海外委員会(出利葉)

20年春ネパールヒマラヤ北西部の未踏峰フィレンコフ峰(6745m)を目指す。山岳連盟の公認をお願いしたい。万が一、事故が起きたときの責任について確認する。

その他

①山岳連盟カレンダーは268部を販売し、12部を寄贈した。(滝田)

②滝田会長の叙勲の祝賀会は2月15日クーポール会館で実施する。(前川)

(記録 清水雄三)